

令 和 5 年 度

大磯町下水道事業会計決算審査意見書

大磯町監査委員





磯監第40号  
令和6年8月20日

大磯町長 池田 東一郎 様

大磯町監査委員 脇 國 廣

大磯町監査委員 玉虫 志保実

### 令和5年度大磯町下水道事業会計決算の審査意見について

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定による令和5年度大磯町下水道事業会計決算及び政令で定める書類について、審査した結果、次のとおり意見書を提出します。

## 目 次

第1 審査の対象	.....	1
第2 審査の期間	.....	1
第3 審査の方法	.....	1
第4 審査の結果	.....	1
第5 審査の概要	.....	2
1 業務概要	.....	2
2 予算の執行状況	.....	3
3 経営成績	.....	4
4 財政状態	.....	5
5 資金収支状況	.....	7
6 まとめ	.....	8

- (注) 1 文中又は表中の金額は、円単位又は千円単位であり、千円単位のものは、原則として千円未満を四捨五入とした。
- 2 比率等は、小数点以下第2位を四捨五入とした。
- 3 構成比は、合計が100となるよう一部調整した。
- 4 「△」表示は負数、「-」表示は該当数値がないもの又は求められないもの、「P」表示はポイントである。

## **第1 審査の対象**

令和5年度 大磯町下水道事業会計

## **第2 審査の期間**

令和6年7月9日から令和6年8月19日まで

## **第3 審査の方法**

令和5年度大磯町下水道事業会計決算書及び附属書類が、地方公営企業法第30条及び同法施行令第23条の規定に準拠して作成され、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、決算諸表、附属書類、関係諸帳簿、証拠書類と照合、点検を行い、関係職員に説明を求めた。また、審査にあたっては事業の経済性の発揮及び公共の福祉を増進するように運営されているか、特に意を用いるとともに、例月出納検査の結果を踏まえ慎重に行った。

## **第4 審査の結果**

決算審査に付された下水道事業会計の決算書及び附属書類は、いずれも関係法令の諸規定に準拠して作成され、かつ、その計数は正確に表示されていると認められた。

なお、審査の概要及び意見については、以下に述べるとおりである。

## 第5 審査の概要

### 1 業務概要

#### (1) 業務実績

区分	単位	5年度	4年度	増減	前年度比(%)
処理区域内人口 a	人	27,992	27,684	308	1.1
処理区域面積	ha	492.97	488.05	4.92	1.0
水洗便所設置済人口 b	人	22,529	21,706	823	3.8
水洗化率 b/a × 100	%	80.5	78.4	2.1	2.7
年間総処理水量	m³	2,428,878	2,316,699	112,179	4.8
一日平均処理水量	m³	6,654	6,347	307	4.8
年間有収水量	m³	2,163,800	2,091,710	72,090	3.4

本年度の業務実績については、処理区域面積は、492.97haで前年度と比較すると4.92ha(1.0%)増加している。処理区域内人口は、27,992人で、前年度と比較すると308人(1.1%)増加している。水洗便所設置済人口は22,529人で前年度と比較すると823人(3.8%)増加し、処理区域内人口に対する割合(水洗化率)は80.5%となっている。年間総処理水量は、前年度に比べ112,179m³(4.8%)増加しており、1日当たりにすると平均処理水量は6,654m³であり、前年度に比べ307m³(4.8%)増加している。下水道使用料の対象となる年間有収水量は2,163,800m³で、前年度に比べ72,090m³(3.4%)増加している。

#### (2) 建設改良事業

本年度の污水施設は、污水枝管整備工事や公共污水ます設置工事12件、実施設計1件、設計積算及び現場技術監理委託7件を実施した。また、雨水施設は、雨水管整備工事4件、設計積算及び現場技術監理委託3件を実施した。

#### (3) 維持管理の状況

本年度は下水道管渠の浚渫やマンホールポンプの定期点検、特定事業場の水質検査等に取り組むとともに、下水道台帳の整備更新などを実施した。

## 2 予算の執行状況

### (1) 収益的収入及び支出

#### 収益的収入執行状況

(単位:円、%)

区分	予算現額 A	決算額 B	予算現額に比べ決 算額の増減 B-A	収入率 B/A
下水道事業収益	955,831,000	917,951,244	△ 37,879,756	96.0
営業収益	411,493,000	422,844,539	11,351,539	102.8
営業外収益	544,338,000	495,106,705	△ 49,231,295	91.0

#### 収益的支出執行状況

(単位:円、%)

区分	予算現額 A	決算額 B	翌年度繰越額 C	不用額 A-B-C	執行率 B/A
下水道事業費用	909,016,000	872,974,817	0	36,041,183	96.0
営業費用	782,419,000	748,403,369	0	34,015,631	95.7
営業外費用	124,596,000	124,571,448	0	24,552	100.0
特別損失	1,000	0	0	1,000	0.0
予備費	2,000,000	0	0	2,000,000	0.0

(金額は消費税及び地方消費税込処理による)

収益的収入の決算額は 917,951,244 円で、予算額を 37,879,756 円下回り、96.0% の収入率となっている。営業収益の主なものは、下水道使用料である。次に収益的支出の決算額は 872,974,817 円で、予算額に対し 96.0% の執行率となっており、36,041,183 円の不用額が生じている。支出の主なものは、相模川流域下水道維持管理負担金、営業費用の減価償却費、営業外費用の企業債利息である。

### (2) 資本的収入及び支出

#### 資本的収入執行状況

(単位:円、%)

区分	予算現額 A	決算額 B	予算現額に比べ決 算額の増減 B-A	収入率 B/A
資本的収入	973,247,000	991,380,983	18,133,983	101.9
企業債	515,500,000	495,400,000	△ 20,100,000	96.1
出資金	163,349,000	212,880,566	49,531,566	130.3
負担金等	17,612,000	19,412,410	1,800,410	110.2
補助金	276,786,000	263,688,007	△ 13,097,993	95.3

#### 資本的支出執行状況

(単位:円、%)

区分	予算現額 A	決算額 B	翌年度繰越額 C	不用額 A-B-C	執行率 B/A
資本的支出	1,336,843,000	1,305,445,021	0	31,397,979	97.7
建設改良費	808,639,000	777,241,417	0	31,397,583	96.1
企業債償還金	528,204,000	528,203,604	0	396	100.0

(金額は消費税及び地方消費税込処理による)

資本的収入の決算額は 991,380,983 円で、予算額に対し 18,133,983 円上回り、101.9% の収入率となっている。資本的支出の決算額は 1,305,445,021 円で、予算額に対し 97.7% の執行率となっており、31,397,979 円の不用額が生じている。支出の主なものは、建設改良費や企業債償還金である。

### 3 経営成績

#### 損益計算書前年度比較

年度 区分	5年度		4年度		対前年度	
	金額	構成比	金額	構成比	差引	比率
営業収益	390,862,960	45.1	386,274,545	44.6	4,588,415	1.2
下水道使用料	320,019,208	36.9	315,212,884	36.4	4,806,324	1.5
雨水処理負担金	70,201,752	8.1	70,731,661	8.2	△ 529,909	△ 0.7
受託事業収益	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他営業収益	642,000	0.1	330,000	0.0	312,000	94.5
営業外収益	476,396,872	54.9	480,747,031	55.4	△ 4,350,159	△ 0.9
受取利息及び配当金	0	0.0	0	0.0	0	0.0
他会計補助金	179,089,675	20.6	189,495,282	21.9	△ 10,405,607	△ 5.5
長期前受金戻入	297,173,094	34.3	291,060,384	33.5	6,112,710	2.1
雑収益	134,103	0.0	191,365	0.0	△ 57,262	△ 29.9
総収益 a	867,259,832	100.0	867,021,576	100.0	238,256	0.0
営業費用	740,324,128	85.4	736,330,865	84.9	3,993,263	0.5
管渠費	41,901,802	4.8	36,501,696	4.2	5,400,106	14.8
流域下水道維持管理負担金	38,009,910	4.4	52,824,728	6.1	△ 14,814,818	△ 28.0
総係費	35,613,679	4.1	41,119,173	4.7	△ 5,505,494	△ 13.4
減価償却費	620,458,396	71.6	605,885,268	69.9	14,573,128	2.4
資産減耗費	4,340,341	0.5	0	0.0	4,340,341	皆増
営業外費用	126,935,704	14.6	130,690,711	15.1	△ 3,755,007	△ 2.9
支払利息及び企業債取扱諸費	124,472,309	14.3	128,259,359	14.8	△ 3,787,050	△ 3.0
雑支出	2,463,395	0.3	2,431,352	0.3	32,043	1.3
特別損失	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他特別損失	0	0.0	0	0.0	0	0.0
総費用 b	867,259,832	100.0	867,021,576	100.0	238,256	0.0
当年度純利益 a-b	0	—	0	—	0	0.0
総収支比率 a/b	100.0	—	100.0	—	0.0	0.0
前年度繰越欠損金	0	—	0	—	0	0.0
その他未処理分利益剰余金変動額	0	—	0	—	0	0.0
当年度未処分利益剰余金	0	—	0	—	0	0.0

(金額は消費税及び地方消費税抜処理による)

#### (1) 総収支

総収益は、867,259,832 円で下水道使用料を中心とした営業収益 390,862,960 円、他会計補助金及び長期前受金戻入を含む営業外収益 476,396,872 円となっている。総費用は、867,259,832 円で流域下水道維持管理負担金や減価償却費を含む営業費用が、740,324,128 円、支払利息を主とする営業外費用が、126,935,704 円となっている。総収益と総費用の差引当年度純利益は、0 円となり総収支比率は 100.0% となっている。

## 4 財政状態

### 貸借対照表前年度比較

(単位:円、%)

年度区分	5年度		4年度		対前年度	
	金額	構成比	金額	構成比	差引	比率
固定資産	20,496,345,417	96.4	20,399,832,696	95.5	96,512,721	0.5
有形固定資産	19,480,502,216	91.6	19,340,491,632	90.5	140,010,584	0.7
無形固定資産	1,015,003,201	4.8	1,058,501,064	5.0	△ 43,497,863	△ 4.1
投資その他資産	840,000	0.0	840,000	0.0	0	0.0
流動資産	766,424,014	3.6	957,374,663	4.5	△ 190,950,649	△ 19.9
現金預金	681,236,943	3.2	853,244,162	4.0	△ 172,007,219	△ 20.2
未収金	89,180,921	0.4	107,384,995	0.5	△ 18,204,074	△ 17.0
貸倒引当金	△ 3,993,850	0.0	△ 3,254,494	0.0	△ 739,356	-
資産合計	21,262,769,431	100.0	21,357,207,359	100.0	△ 94,437,928	△ 0.4
固定負債	9,289,895,759	49.4	9,330,512,384	48.8	△ 40,616,625	△ 0.4
企業債	9,289,895,759	49.4	9,330,512,384	48.8	△ 40,616,625	△ 0.4
流動負債	986,868,614	5.2	1,227,522,274	6.4	△ 240,653,660	△ 19.6
企業債	536,016,625	2.8	528,203,604	2.8	7,813,021	1.5
未払金	445,034,989	2.4	694,378,670	3.6	△ 249,343,681	△ 35.9
引当金	5,417,000	0.0	4,540,000	0.0	877,000	19.3
預り金	400,000	0.0	400,000	0.0	0	0.0
繰延収益	8,546,487,968	45.4	8,572,536,177	44.8	△ 26,048,209	△ 0.3
長期前受金	8,546,487,968	45.4	8,572,536,177	44.8	△ 26,048,209	△ 0.3
負債合計	18,823,252,341	100.0	19,130,570,835	100.0	△ 307,318,494	△ 1.6
資本金	2,436,007,954	99.9	2,223,127,388	99.8	212,880,566	9.6
自己資本金	2,436,007,954	99.9	2,223,127,388	99.8	212,880,566	9.6
剰余金	3,509,136	0.1	3,509,136	0.2	0	0.0
資本剰余金	3,509,136	0.1	3,509,136	0.2	0	0.0
利益剰余金	0	0.0	0	0.0	0	0.0
資本合計	2,439,517,090	100.0	2,226,636,524	100.0	212,880,566	9.6

(金額は消費税及び地方消費税抜処理による)

#### (1) 資産

資産の合計額は、21,262,769,431 円である。資産の内訳は、固定資産が、20,496,345,417 円、流動資産が 766,424,014 円となっている。固定資産のうち、有形固定資産が 19,480,502,216 円である。

#### (2) 負債・資本

負債の合計額は、18,823,252,341 円で、その内訳は、固定負債が 9,289,895,759 円、流動負債が 986,868,614 円、繰延収益が 8,546,487,968 円で固定負債は全額が企業債である。資本の合計額は 2,439,517,090 円で、そのうち資本金は 2,436,007,954 円である。

### (3) 企業債の状況

(単位:円)

区分	4年度末 借入残高	5年度		5年度末 借入残高
		借入額	元金償還額	
公共下水道事業債	9,456,826,030	483,400,000	474,243,394	9,465,982,636
流域下水道事業債	361,588,760	12,000,000	47,659,926	325,928,834
公営企業会計適用債	40,301,198	0	6,300,284	34,000,914
合計	9,858,715,988	495,400,000	528,203,604	9,825,912,384

企業債の5年度末現在高は、9,825,912,384 円で公共下水道事業債が 9,465,982,636 円、流域下水道事業債が 325,928,834 円、公営企業会計適用債が 34,000,914 円となっている。

## 5 資金収支状況

### キャッシュ・フロー

(単位:円)

区分	5年度	4年度	対前年度差引
1 業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益	0	0	0
減価償却費	620,458,396	605,885,268	14,573,128
固定資産除却費	4,340,341	0	皆増
賞与引当金増減額(△は減少)	△ 145,000	△ 141,000	△ 4,000
貸倒引当金増減額(△は減少)	739,356	△ 16,885	756,241
長期前受金戻入額	△ 297,173,094	△ 291,060,384	△ 6,112,710
受取利息及び配当金	0	0	0
支払利息及び企業債取扱諸費	124,472,309	128,259,359	△ 3,787,050
営業及び営業外未収金増減額(△は増加)	17,794,304	△ 7,542,745	25,337,049
営業及び営業外未払金・未払費用増減額(△は減少)	19,444,307	△ 6,905,489	26,349,796
その他流動負債の増減額(△は減少)	0	△ 50,000	皆増
小計	489,930,919	428,428,124	61,502,795
受取利息及び配当金	0	0	0
支払利息及び企業債取扱諸費	△ 124,472,309	△ 128,259,359	3,787,050
業務活動によるキャッシュ・フロー a	365,458,610	300,168,765	65,289,845
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 711,186,846	△ 1,042,904,178	331,717,332
国庫・県補助金による収入	194,000,000	342,200,000	△ 148,200,000
他会計補助金による収入	49,544,322	34,763,208	14,781,114
負担金等による収入	18,477,951	33,866,915	△ 15,388,964
投資活動に伴う未収金等の債権の減少額	409,770	792,840	△ 383,070
投資活動に伴う未払金等の債務の増加額	△ 268,787,988	278,249,266	△ 547,037,254
投資活動によるキャッシュ・フロー b	△ 717,542,791	△ 353,031,949	△ 364,510,842
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	495,400,000	705,200,000	△ 209,800,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 528,203,604	△ 538,427,693	10,224,089
一時借入による収入 ※	150,000,000	341,000,000	△ 191,000,000
一時借入金の返済による支出	△ 150,000,000	△ 341,000,000	191,000,000
他会計からの出資による収入	212,880,566	247,280,277	△ 34,399,711
財務活動によるキャッシュ・フロー c	180,076,962	414,052,584	△ 233,975,622
4 現金預金の増加額 a+b+c	△ 172,007,219	361,189,400	△ 533,196,619
5 現金預金の期首残高	853,244,162	492,054,762	361,189,400
6 現金預金の期末残高	681,236,943	853,244,162	△ 172,007,219

(金額は消費税及び地方消費税抜処理による)

本年度のキャッシュ・フローの状況は、業務活動が 365,458,610 円、投資活動が △717,542,791 円、財務活動が 180,076,962 円となっている。

## 6 まとめ

下水道事業会計は、経営の明確性や安定性を確保するために、令和2年4月から地方公営企業法の財務規程等を適用した会計に移行している。参考となる経営指標については、経営の安定度を表す自己資本構成比率は、51.7%、短期的な債務に対する支払能力を表す指標である流動比率は、77.7%、収益的収支の経営状況を分析する経常収支比率は、100.0%、使用料で賄うべき汚水処理費が使用料によりどの程度賄われているかを表す経費回収率が、98.1%となっている。大磯町は、汚水処理施設整備が整備途上であるため一概に各指標を評価できないが、処理区域面積の拡大に伴い、経営状況が改善されてきた。今後も下水道使用料の未収金を費用負担の公平性から回収を進め、下水道未接続世帯を解消し水洗化率を向上させること等により経営改善に努められ、より一層の効率化を図り、下水道事業が、安定的かつ持続的に提供されることを望むものである。

また、近年では、局地的な豪雨や風水害等に備えて、雨水排除としての役割も大きく、引き続き雨水施設整備も進めて頂きたい。

## 参考資料

### 経営財務分析表

(単位: %)			
指標	算式	5年度	4年度
自己資本構成比率	$\frac{\text{資本} + \text{繰延収益}}{\text{総資本(負債+資本)}} \times 100$	51.7	50.6
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	77.7	78.0
経常収支比率	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$	100.0	100.0
経費回収率	$\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費(公費負担分を除く)}} \times 100$	98.1	99.8

#### 【自己資本比率】

総資本(負債及び資本)に占める自己資本(資本に繰延収益を加えたもの)の割合で、比率が大きいほど経営が安定しているとされる。下水道事業は、建設投資財源のうち企業債発行による財源調達の割合が高いため一般的に低くなる傾向がある。

#### 【流動比率】

流動資産だけで流動負債を賄えるかどうかを示した指標で、流動比率が高ければ短期の支払能力があると評価され、比率が大きいほど良好といえる。

#### 【経常収支比率】

維持管理費や支払利息等の費用が、料金収入や他会計繰入金等の収益によって、どの程度賄えているかを表す指標。100%以上で経営が健全とされる。

#### 【経費回収率】

汚水処理費(使用料で賄うべき費用)が、使用料によりどの程度賄えているかを表す割合。100%を下回る場合、汚水処理に係る費用が使用料以外の収入により賄われていることを意味する。下水道事業の性格上、供用開始後間もない場合は、接続率が低く使用料収入が少額となり100%未満となる場合が想定される。